

研究実施のお知らせ

2025年1月6日 ver.1.1

研究課題名

新型コロナウイルス感染拡大下における行動制限中の逆流性食道炎の頻度に関する後ろ向き研究

研究の対象となる方

2017年4月から2023年3月までの間に島根県環境保健公社総合健診センターに人間ドックのために受診し、上部消化管内視鏡検査を受けられた方

研究の目的・意義

逆流性食道炎は、胃の内容物（主に胃酸）が食道に逆流することにより、食道に炎症を起こす病気です。健康な方では、食道の下部にある下部食道括約筋によって、逆流は起きにくくなっていますが、肥満による腹圧の上昇は、この働きを弱めて、逆流しやすい状態となります。実際に肥満の方では逆流性食道炎の頻度が高いことがわかっています。2020年4月に新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出され、その後、感染拡大防止のために社会活動の制限が行われてきました。この間、テレワークの増加や外出制限などで運動不足となり、体重増加に伴って、逆流性食道炎の患者さんが増加した可能性があります。十分な調査は行われていません。

この研究の目的は、人間ドックで上部消化管内視鏡検査を受けられた方を対象とし、新型コロナウイルス感染による行動制限が行われた2020年4月～2023年3月までの3年間の逆流性食道炎および肥満の頻度を調査し、感染拡大前の2017年4月～2020年3月までの3年間と比較することで、コロナ禍によって逆流性食道炎の頻度にどのような影響が出たかを調査するものです。この研究によって、今度同様の社会活動制限が生じた際の逆流性食道炎発症予防対策に生かすことが可能となります。

研究の方法

利用する人間ドック結果の項目：以下の項目を取得します。

- 1) 年齢、性別
- 2) 身長、体重、BMI、腹囲
- 3) 内服歴（酸分泌抑制薬）
- 4) 生活歴（飲酒・喫煙）
- 5) 逆流性食道炎の有無

- 6) 胃粘膜萎縮の程度
- 7) 反転ヘルニアの有無

上記の内容についてドック情報から収集し、調査票（電子ファイル）に記入後、研究責任者に電子メールにて提出します。ファイルにはパスワード保護を行い、使用可能な研究者を制限します。パスワード管理は厳重に行います。

研究の期間

2023年9月21日～2026年3月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究代表者：

島根大学医学部内科学講座（内科学第二） 石村典久

共同研究機関：

島根県環境保健公社総合健診センター

[研究責任者]

足立 経一

[機関の長]

吉川 敏彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2024年3月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：石村 典久

所属： 島根大学医学部内科学講座（内科学第二）

住所：出雲市塩冶町 89-1

電話：0853-20-2190 FAX：0853-20-2187